

令和7年度デジタル田園都市国家構想交付分 事業実施結果 個票

交付対象事業名	デジタルサポートルーム「上島モデル」(デジタル実装タイプーTYPE1)			
事業の目的	不登校支援のためのデジタルサポートルームを、拠点校に対面可能ルームを設置し、バーチャルサポートルーム(メタバース)をクラウド上に設置する。学校に来づらい子どもたちがオンラインで授業に参加したり、バーチャル教室で学習に取り組んだり、オンラインカウンセリングを受けたりできる環境や体制を整える。フリースクールのような施設がない離島の不利を、デジタルの活用によって克服し、本町の教育環境の魅力化から地域活性化につなげる。			
個別事業の内容	【計画】7,357千円 【実績】5,610千円 【学びの保障サービス】 - 対面によるデジタルを活用した個別学習支援 - 教室および対面可能ルームからの授業配信 - バーチャル教室(メタバース)での学習支援 【進路保障サービス】 オンラインカウンセリングの実施 バーチャル教室(メタバース)での進路相談 デジタルサポートルームの本格運用2年目となった。利用する児童生徒にとって、安心して学べる居場所づくりにつながっている。今後も各校校長をはじめ、日頃から不登校児童生徒やその保護者に接している教職員への説明や啓発、体験を積極的に行うことにより、不登校から抜け出せそうな児童生徒の学校復帰のきっかけにすることが必要である。 常駐する支援員を2名確保したことで、受け入れ態勢を充実させることができ、児童生徒一人一人に対してきめ細やかな対応ができている。今後も定期的に啓発を図っていくことで、利用者の拡大が見込まれる。デジタルサポートルームの強みを生かし、不登校児童生徒の割合を更に減らしていく。			
本事業における重要業績評価指標(KPI) ※目標年月はR7年3月				
指標	指標値 (2018～2024累計)	R7実績値 (2018～2025累計)	達成度	実績値に対する事業効果及び考察 (要因分析、要改善事項等)
① デジタルサポートルームを利用した不登校児童生徒の割合	50 %	85 %	170%	指標①③はデジタルサポートルームの本格稼働2年目で安定して運用ができ、利用児童生徒が安心して登室することにつながった。指標②については、校長や教務主任等への周知の結果、生徒の利用につながっているものの、対面方式の交流活動の方が活性化したことで、バーチャル上での利用の相対的な必要性が下がり、利用者の大幅な増加には至らなかった。指標④については、不登校出現率0%が最終目標値であり、そこに近付けるように学校や保護者との連携を強化し、運用を工夫して進めたい。指標⑤については、アンケートを用いたり直接面談を行ったりしながら、満足度を計測し、支援の在り方をその都度見直していることで、利用満足度は向上している。
② バーチャル教室(メタバース)を利用した児童生徒数	69 人	55 人	80%	
③ オンラインを含めたカウンセリングの実施割合	100 %	100 %	100%	
④ 児童生徒100人当たりの不登校出現率	1.5 %	2.19 %	68%	
⑤ デジタルサポートルームを利用した児童生徒・保護者の満足度	85 %	90 %	106%	
上島町総合戦略等推進会議による評価			実績値を踏まえた事業の今後について(担当課)	
●総合戦略のKPI達成に有効な事業であったか ☒ 有効であった ☐ 有効とは言えない ●事業実績評価 (非常に効果的であった 相当程度効果があった 効果があった 効果がなかった) ●今後の方針 (発展 ・ 改善 継続 中止 ・ 終了)			●今後の方針 (発展 ・ 改善 ・ 継続 中止 ・ 終了) ●今後の方針の理由 令和7年度もデジタルサポートルームの需要が一定数見込まれる。あと一押しで家庭から出る(学校に行ける)不登校児童生徒や保護者にデジタルサポートルームを見学、体験できる機会を増やし、利用する(したいと思う)不登校児童生徒を学校復帰へと導くことのできる居場所づくりを促進する。	

デジタル田園都市国家構想交付金

事業名	デジタルサポートルーム「上島モデル」										
交付金の種類	デジタル実装タイプ TYPE1	総事業費 (千円)	7,357	計画額 (千円)	7,357	実績額 (千円)	5,610	担当課	学校教育課	担当者	曾我部 芳昭

事業の概要	取組内容	目標	目標達成度
不登校支援のためのデジタルサポートルームを、拠点校に対面可能ルームを設置し、バーチャルサポートルーム(メタバース)をクラウド上に設置する。学校に来づらい子どもたちがオンラインで授業に参加したり、バーチャル教室で学習に取り組んだり、オンラインカウンセリングを受けたりできる環境や体制を整える。フリースクールのような施設がない離島の不利を、デジタルの活用によって克服し、本町の教育環境の魅力化から地域活性化につなげる。	学校に行きづらかったり、教室に入りづらかったりする児童生徒が対面可能サポートルームやバーチャルサポートルーム(メタバース)で自分のペースで学習に取り組んだり、カウンセリングを受けたりすることのできるサービスを提供する。 【学びの保障サービス】 ・対面によるデジタルを活用した個別学習支援 ・教室および対面可能ルームからの授業配信 ・バーチャル教室(メタバース)での学習支援 【進路保障サービス】 オンラインカウンセリングの実施 バーチャル教室(メタバース)での進路相談	① デジタルサポートルームを利用した不登校児童生徒の割合 50% ② バーチャル教室(メタバース)を利用した児童生徒数 69人 ③ オンラインを含めたカウンセリングの実施割合 100% ④ 児童生徒100人当たりの不登校出現率 1.5% ⑤ デジタルサポートルームを利用した児童生徒の満足度 85% ⑥ デジタルサポートルームを利用した児童生徒の保護者の満足度 85%	① 利用不登校児童生徒の割合 85% 【目標達成度 170%】 ② 利用生徒児童数 55人 【目標達成度 80%】 ③ 実施割合 100% 【目標達成度 100%】 ④ 不登校出現率 2.19% 【目標達成度 68%】 ⑤ 児童生徒満足度 90% 【目標達成度 106%】 ⑥ 保護者満足度 90% 【目標達成度 106%】

事業計画(変更計画) (P)	実行(D) ※計画に対する実績	評価(C)・改善(A) ※実施後の分析、検証とその対策
対面によるデジタルを活用した個別学習支援	・ デジタルサポートルーム支援員を2名に増員し、利用する児童生徒に対して個別学習支援をより充実させることにつながった。	デジタルサポートルームの本格運用2年目である。利用する児童生徒もおり、安心して学べる居場所づくりにつながっている。今後も各校校長をはじめ、日頃から不登校児童生徒やその保護者に接している教職員への説明や啓発、体験を積極的に行うことにより、不登校から抜け出せそうな児童生徒の掘り起こしと学校復帰のきっかけにすることが必要である。 常駐する支援員を2名に増員したことで、受け入れ態勢を更に充実させることができ、児童生徒一人一人に対してきめ細やかな対応ができています。今後も定期的に啓発を図っていくことで、利用者の拡大が見込まれる。デジタルサポートルームの強みを生かし、不登校児童生徒の割合を減らしていく。 【令和8年度事業計画】 運用3年目となる。支援員を3名に増員し、常駐2名で安定した運営を行い、これまで以上に該当児童生徒が不安なく安心して登室できる環境を整備する。そのために次のことを進めていく。 ① 教職員への啓発、授業配信への協力依頼 ② 保護者への啓発、説明 ③ 支援員への研修 ④ 他地域、先進地域からの情報収集
教室および対面可能ルームからの授業配信	・ 利用する児童生徒に対して、授業配信を行った。自教室の担任に依頼しカメラの位置を適宜動かしてもらった。さらにヘッドホンを着用することで、より効果が上がることが実証された。	
バーチャル教室(メタバース)での学習支援	・ 昨年度同様、校長会や生徒指導主事会等で概要を説明したり、体験入室をしてもらったりすることで、目標を達成することができた。しかし、対面交流の方が活発化し、継続的な利用には至っていない。	
オンラインカウンセリングの実施	・ デジタルサポートルームでのオンラインカウンセリングの利用はなかった。しかし、従来から行っている不登校児童生徒に対する対面によるカウンセリングは実施できている。引き続きオンラインカウンセリングについても利用を促していく。	
バーチャル教室(メタバース)での進路相談	・ バーチャル教室での進路相談の利用はなかった。引き続き、広く希望者を募り、児童生徒の希望に沿ってバーチャル教室での進路相談を併用する。	